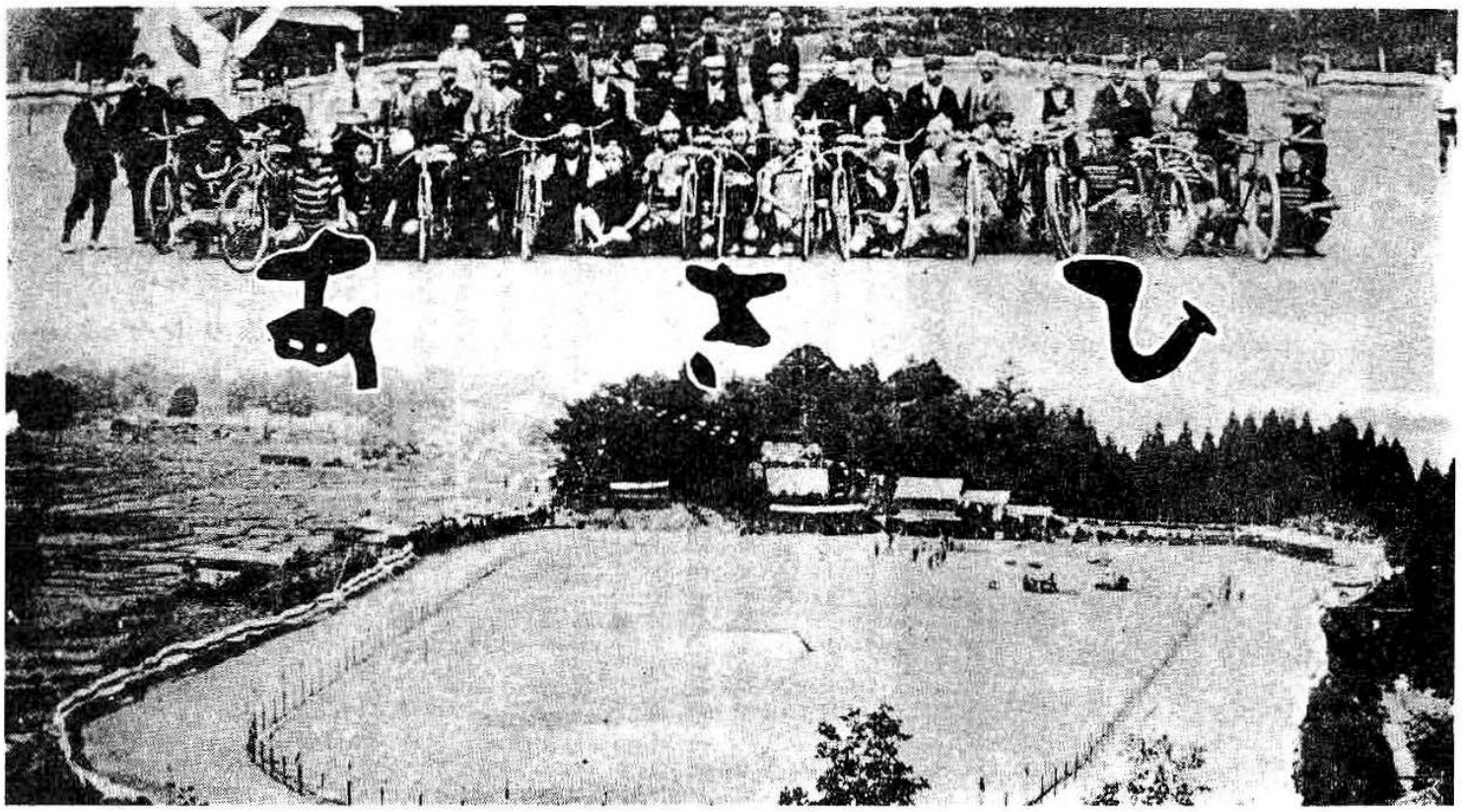


明治・大正・昭和の郷土のスガタ

小丸山公園の今昔

泊の公園地といえば、朝日町はおろか、県内や隣の新潟県にまで知れわたり、親しまれたところだ。

北は日本海のあの荒磯海を見はるかし、東南には馬鬣(ばりょう)山の松柏の緑のさえた山波を負う景勝の地である。

今日は、野球場や朝日町民体育大会の会場として、また泊高校の運動場、泊小学校の運動会場として使用されている。

この泊の公園地は、いつの頃にひらかれたものであろうか。何の目的をもって造られたものなのか。

明治三十七年、小川温泉の経営者である伊東祐賢氏(当主礼三氏の先代)が刊行された「小川温泉誌」という小冊子をひもといてみると、

八幡宮(泊の脇子八幡宮)(ひやくやま)の背面百山の麓にあり、広ぼう六千坪を有し、中央は射的場にして、周囲は自転車の競走場なり。明治三十六年有磯両友会の設備に成れり、小川温泉の浴客にして、其嗜あるものは、就いて半日の清興を買ふも可ならん。(原文のまま)

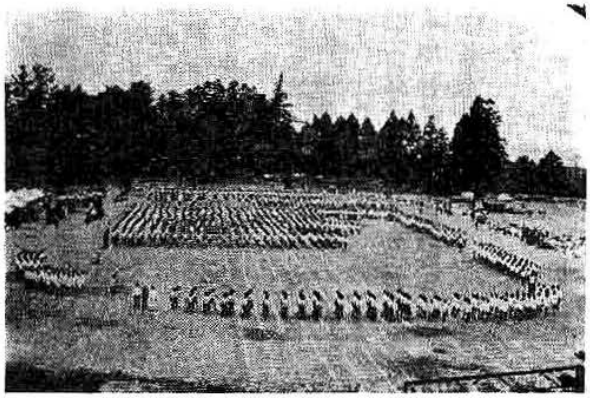
と記されてある。今から六十五年前にひらかれたということがわかる。

当時、旧泊町には、伊東、草野、小沢、松田、阿部、柚木、中川等の素封家があり、椚山には長島、入善では米沢両家、竹内、野島などの素封家、大地主があつた。これら大地主たちのレジャーの一つとして、みんなで出資し合つて、射的場兼自転車の競走場が造られたのである。ある時は生きた小島を放つて、ある時は素焼きのカワラケ(小皿)を空中高くほうり上げ、これをねらい撃つ競争をして鉄砲のだいご味を満喫し、また周囲にさくをめぐらして、当時では実に物めずらしい自転車を走らせて、今日のいわゆる競輪様の競走をして、レジャーを楽しんだものであった。今日なお、古老やこれを知る人らの語り草として伝え聞いていることである。

このレジャーとしての施設も、やがて姿を消し、桜の木が植えられて、公園としての体裁を整えてきた。春四月、桜の花の季節ともなれば、小丸山公園の桜、小川温泉の桜と、共に当地方まれに見る桜の名所となつた。今はその桜も老樹となり、あるいは運動場拡張のための犠牲となつて伐採されてしまつて、いわゆる公園としての姿はそのあとをとどめぬ、今日のグラウンドとなつてしまつたのである。

戦前、泊小学校の運動会、今日も十月一日に行なわれているが、泊区域の各小学校の選手が出場して、リレー等、観客の応援、拍手かつさいで大いににぎわつたものだ。泊区域連合青年団の体育大会も毎年夏のお盆の行事として、青年たちは若き者の血をたぎらせた運動場であり、また、泊の馬鬣倶楽部主催による両越学童体育大会(新潟、富山)なども盛大に花やかに開催されたものであつた。

終戦後、朝日町の誕生を見るに至り、朝日町民体育大会場となり、十一月三日の文化の日の行事がくりひろげられ、昭和三十三年、富山県が国体の開催県となつたとき、朝日町の小丸山グラウンドが、準硬式野球場となつたのを機会に、大拡張工事が施された。その試合の行なわれた時、高松宮妃殿下のご臨席があつて、花やかな雰囲気の内にはをきそい、地元町民それぞれの県のチームの応援を分担して、応援合戦をくりひろげたものだつた。(K)



現在の小丸山グラウンド

〈標題写真〉
射的場は中央、さくの周囲は自転車競走場。上部は選手等関係者
(松田正夫氏所有)

町ぐるみ健全育成へ

県青少年活動推進特別地区に指定

泊地区

朝日町泊地区は、昭和四十三年度から二年間にわたり、富山県青少年活動推進特別地区として指定されました。

朝日町青少年問題協議会では、泊地区に青少年活動推進協議会を設置し、地区民の協力を得ながら、積極的に活動を推進することになりました。

事業計画は次のとおりですが、本年は特に児童会の組織づくりに重点をおき、努力することになりました。泊地区のみなさんはもちろん、全町をあげて青少年健全育成運動にご協力くださるようお願いします。

事業計画

一、青少年活動推進協議会の設置
二、児童クラブ組織づくり
三、広報活動の推進
　町広報、有線放送、標識塔の設置
四、研修活動
　指導者及び補導員等の研修会
六、調査活動
　青少年活動等の調査
七、講習会及び講演会等の開催
八、青少年団体合同活動の推進

泊地区青少年活動推進協議会委員名簿

会長	片柳　豊（日東紡泊工場長）	
副会長	西井達吾（泊区長会長）	
副会長	橘　実（中学校PTA会長）	
委員	米屋繁造（泊高等学校長）	
〃	田中忠次（泊中学校長）	
〃	高桜喜義（泊小学校長）	
〃	愛場久太郎（泊三区長）	
〃	水島畑次郎（泊一区長）	
〃	中野啓三郎（泊公民館長）	
〃	柚木文次（泊高校PTA会長）	
〃	寺田利太郎（泊小学校PTA会長）	
〃	入江　久（泊青年団長）	
〃	水野すな（泊婦人会長）	
〃	村口隆造（ボーイスカウト団委員長）	
〃	小沢　浩（ロータリークラブ）	
〃	高桜宗繁（泊地区体協長）	

（朝日町青少年問題協議会）

広川親義氏

窪田市蔵氏

新教育委員に広川・窪田氏

委員長は鹿熊氏再選

十月十九日をもつて教育委員任期満了となつた大森覚一氏と在田祐芳氏の後任として、広川親義氏（幸町）と窪田市蔵氏（桜町）が選任されました。

なお十月二十八日に開かれた教育委員会で、委員長に鹿熊久一委員、委員長職務代理には大浜豊治委員がそれぞれ選ばれました。

〈広川親義氏略歴〉
大正十四年富山師範学校卒
元北日本新聞社編集局次長
越中万葉顕揚会委員

〈窪田市蔵氏略歴〉
昭和五年富山師範学校専攻科卒
元南保小学校校長
桜町々内会長
町内会五箇庄地区々長

（教育委員会）

国民健康保険

脳軟化症

脳軟化症は、脳の血管がつまって、脳の一部に栄養補給ができなくなり、組織が破壊され、やわらかくなる病気で、〝脳血栓〟と〝脳塞栓〟があり、高年令者に多い。

脳血栓

脳の血のめぐりが減り、血液が流れにくく、固まりやすくなる。血管がつまると、その部分の脳組織がくさったようになり、意識がなくなり、手足のマヒがおこったりする。

症状　①初期のうちは、物忘れやめまい、頭が重いなどの症状がある。
②マヒは、手、足の順におき、次に口もきけなくなり、数ヵ月から一年余にわたって発作を起こしてくる。
軽いものは、顔色や体温、呼吸も変わらない。

治療　①発作後早く入院させることが大切。
②血管がつまっているような場合手術で固まりをとる。

機能訓練　①発作が起きて数日後から、自分の力、または介助者の手で手足を動かし、固くならないようにする。
②発作後一週間以上たってから坐らせて、できるだけ医師の指示に従って訓練に入っていく。

家庭看護　①感覚がないので、湯たんぽなどでやけどをさせぬように注意する。
②言語障害があっても、耳が聞こえ、神経も相当敏感になって、すぐ涙ぐんだり、いらいらしたり子どものようになっていることが多い。
養生して、早くもとの体になるよう励まし、再発作を防ぐことが大切。

脳塞栓

血液や脂肪、細菌のかたまり、あるいは血管に空気が入って、脳の血管をつまらせるため脳組織の軟化をおこす。

原因　心臓内にできた血液のかたまりがはがれて、脳の血管を閉塞する。

症状　突発するもので、意識を失い、手足のマヒがおこる。軽いときは意識が回復し、手足のマヒが次第に直るが、ひどいときは死亡する。

予防法　①日常生活の過労、過度の精神の緊張がよくない。
②酒は一定量たしなむのはよいが過量にならぬこと。
③卵黄、レバー、エビ、カニなどはコレステロールを多く含んでいるため、とりすぎないようにすること。
④高血圧の人は塩分に気をつけること。

（民生課）

座談会

関電朝日第一・第二発電所実施計画発表とその後の問題点（10）

出席者
朝日町長　中川雅一
朝日町助役　加藤俊之
町議会総合開発特別委員長　酒井栄
朝日町総務課長　大平勝雄
町内会長代表　愛場久太郎
商工会長　小沢浩
中央公民館長　大菅達二
連婦会長　水野すな
連青会長　岡本輝夫

司会
あさひ編集委員長　九里道守

司会　ことしの五月号以来、朝日発電についての座談会が中断されていたのですが、町民のあいだに、その後の経過、一体朝日発電がどうなるのだろう、見込みないのではないか、などの不安感を持っている者その他あれやこれやとデマめいた話も耳にするようでこの際町民の皆さんにご理解を得ておきたいことなども合わせて今晩の座談会を開催したわけです。

つきましては、まず朝日発電は県の段階にうつったわけですが、県の方では、どんなふうにこのことを考え進めておられるのでしょう。

町長　町民の皆さんの間に、いろいろと、朝日発電について取りざたされていることは、私も耳にしています。それだけに、朝日発電の早期実現を希望しておられる町民各位の熱意の程もうかがわれてなりません。

ご指摘のとおり、この先の座談会でも申しましたとおり、朝日発電は県の段階において可否の決着をつけるところへいっております。そこで、新聞などの報道でもご承知のことと思いますが、県は朝日発電ということではなく、黒部川扇状地帯の水資源の総合調査に入ったわけです。朝日町としては、はじめから、「我田引水の説ではないと信じている。だから、すみやかに調査を進めるべきである。」と主張してきたのですから、おそすぎましたものの、ひとつの前向きの段階には入ったといえます。

小沢　政府において電力開発審議会が十一月にひらかれるとか聞いておりますが、それにも県としては間に合わないことになると、また先に伸びるおそれがあるということですか。

酒井　ご意見のとおりです。今あらためて黒部川扇状地帯総合開発の調査にはいっている段階ですので、朝日発電はその結論まちの中にあると言わねばなりませんので、まず、今年中には成否の結論を出せるかどうか、あやぶまれるわけです。

愛場　そうしますと、関電としては、気ながにその結着を待ってくれるでしようか。

酒井　その辺はなかなか微妙なところでしてね。

小沢　新聞報道で知ったのですが、庄川の水力発電なんか、富山県内でやらないで、上流の岐阜県で今度あらたに調査を開始したとか。

酒井　新聞に報道せられたとおりで、関電としては、水力発電の開発だけを考えましても、あっちにもこっちにも相当たくさんの開発予定箇所を持っているわけで、工事を行なうための条件もいろいろありまして、また地元の協力が得られる所と得られないところと、どちらを先にするか、これはいうまでもないことです。何としても開発関係地元の協力、受入れ体勢というものが大事なことです。この点朝日発電もそう甘く考えるべきでないと思われます。発電事業はいかに国家的要請のもとになされるものであっても、地元が賛成、反対と意見統一がなされないでは、それを押し切ってまでもというわけには参りませんからね。

ついでにご参考までに申しあげておきますが、関電が昨年富山県へ支払った水利使用料は四一、八〇〇万円です。固定資産税については、県と各市町村へどれだけ支払っているかと申しますと六〇、七〇〇万円で二つ合わせますと、県及び市町村へ、実に一〇二、五〇〇万円の金を支払っているわけです。これだけの高額の税金を納めている会社は、県内にそう多くありません。これを考えてみても地域の開発は公共投資のみに依存できないわけであるとおもいます。

水野　お聞きしますと、発電事業というものは、なかなか大きな税金を納めているものですね。ところでわたしの耳にしたところで、こんなことを聞きました。反対する側では、長くごねておればおるほど、補償金ですか、協力費ですか、それの額がふえるんだと、いうことを。

酒井　昔のように水力発電オンリーの黄金時代なら別として今時、そんなごね得などということは決してあり得ないことです。県知事さんは、立山一帯のあの雪を白い石炭という表現をされています。それと、降雨量の多い富山県で大いにこのような天然資源を活用して、県土の高度開発に大いに役立てるという大きな見地に立って判断し、そして、子孫により住みよい富山県をゆずっていくということがわたしたちの義務ではないでしょうか。

わたしが最近、ある中学校でひらかれた教育研究会に参観の機会を得ましたその時に、「社会性豊かにして実践力に富む生徒の育成」という研究目標による国語の公開授業で、その先生が、テキストとして使っておられた、故小泉信三先生の「国土の姿」と題する文章を読みまして、わたしは非常に感銘いたしましたので、その一文を引用させていただきまして、県土総合開発、朝日発電などの問題と考え合わせてみたいと思うのです。まずリンカーンと森鷗外の文章から引用して、

「人間の顔、それは一芸に達し、一業を成しとげた人の顔には、おのずからそのことが顔に現われるものである。人間生まれながらの顔で死んでいくことははずかしいことである。

これがわれわれ祖先から伝えられた国土についてもいえる。顔が自分によってつくられると同じように、国土もまた国民自身によってつくられるもので、われわれがこの日本の国土を、祖先からうけとったままの姿で子孫に伝えることは恥じなければなりません。アメリカの現時代は、かの有名なテネシー開発公社（T、V、A）が、大規模な電源開発に伴う総合開発によって文字どおり彼らはよりよき国土の姿に改めました。

電気のことをわたくしはなにも知りませんが、日本の未開発の水力電源は、現在の二倍であります。かりにその半分だけが電力化されたとしても、日本の産業と日本人の生活は一変するでしょう。これを知りつつそのままにしておくという法はない。資源に乏しい日本において、一滴の雨といえども、これをとらえず、いたずらに流れ去るままに任すべきでない。われわれはもとより自然のままの

風景の美を愛しますが、さらにいつそう、人工のダムによつて満々たる大湖の出現とそれによつて造り出される電力の増加を待つものであります。春風秋雨は自然の支えたものであるとしても、年々の水害による損失は莫大であります。治山、治水を計ることにより、日本を洪水や決壊のない国とすること、少なくともそれを最小限度にとどめることは、長くわれわれの子孫から感謝されるべき遺産でありましよう。」

と述べておられる。

この一文を読んで、小泉先生ならではの感を深くし、感銘おくあたわざるものがあった。吉田知事は〝川の夢〟にも申し述べられているとおり富山県の川は、人工を加えることによってもはやかっての洪水、決壊等の災害から脱した。水稲単作地帯である富山平野もかんがい用水の改修によって、あるいは電源開発の為のダム造成によって、水の心配はまずないといってよい。むしろ川にめぐまれた富山県は、この川を横につなぎ、足らざるを充足して、相互活用の一大計画を立てるべきでいつまでも流域住民は父祖伝来の河川にのみ固執する時代でないと、いっておられる。四選吉田県政の〝川の夢〟は、いかように発展をみるかは後日の問題としても、小泉先生の一文といいまことにわれわれの関心深き朝日発電におもいを合わせますと、ますますその感をつよくするものです。まことに感銘深い勉強をさせてもらったので特にこの機会に申しあげたわけです。

岡本

実に結構なお話をおきかせ願ってありがとうございました。われわれ青年団においても、この朝日発電問題について少なくとも青年だけでも理解を深めたいとおもいまして入善、黒部、宇奈月の団へも話かけているのですが、入善団では、関電の話をよくきく機会をほしいのだが、町当局が拒否しつづけている中でそれをのりこえてまでも青年団がやることに、かえって逆効果をもたらす恐れがあるとして、ふみきれない実状であり、また宇奈月、黒部の方の団では、そのような渦中に求めてはいり度くないというのが現状でその後、わたしたちの企画も前進をしていないのです。わたしたちの力の足りないこともありましようが、現状はこういうところです。

愛場

ところで「あさひ」五月号以来チョイチョイ耳にする話ですが、朝日発電が実現したあかつきには、一体固定資産税がどれだけ朝日町にはいって来るのだろう。いやはいってくるにはくるが従来町にきていた地方交付税が差引かれるので、別に町が裕福になることはないんだ、といった意見やら、いろいろと取り沙汰されているようですが、この辺のところをこの機会に明らかにした方がよいのではないでしようか。

司会

実は、わたしの方へも、座談会の記事の中で、なぜこの大事な固定資産税の問題を明らかにして、町民に知らしめないのか、という申し出でをした人もありました。わたしは、こうした両者相反する意見で混乱しているときに、そんなことを明らかにすることは、少なくともわたしたちの本意ではない、これはさけるべきことだとお答えしておきました。

酒井

そのとおりです。ことに朝日発電は、宇奈月、入善、朝日、と三町にまたがる施設でありますのでその算出が簡単なものでないのです。

大菅

わたしも時折きくのですが、町がトクをするとか、損をするとかいう意見の根底に何か間違った考えがあるように思います。この固定資産税が、朝日発電所が操業を始めた時からはいってきますね。その分だけ地方交付税から差し引かれるから別に町が得をするのではないという意見ですが、固定資産税を収納できるだけ、わが朝日町に財産がふえたという事実を見逃しているのではないでしようか。そして、多額の交付税を国からもらっているということは、いわば要援護世帯みたいもので、国からの援護をうけているので、それが少なくなることは、それだけ町がだんだん一人歩きできるような力を持つようになってきたので、喜ぶべきことではないんでしようか。

町長

大菅さんのお話しのとおり、発電所に限らず、固定資産は町の財産です。人と物をふやすことは、県であれ町であれ、当然努力すべきだと思います。つまり自己の収入を上げればよそからのもらい分が減る。減るのなら自分で努力することはつまらないという考え方は適当ではない。やはり、少しでも自己財源をふやし、これを積みあげていつてこそ町勢の前進があるはずです。いまにでも棚ボタがころがり込んでくるようなわけにはまいりません。

総務課長

固定資産税がはいってくると、交付税がそれだけ差し引かれるという話ですが現行の規定では百%差引かれるのではなく、収納される額の七五%が対象となります。

愛場

ご説明で大体納得できます。それにしましても、何といっても、朝日発電所の実現は、やはり朝日町に大きなプラスになるのですから、これに向かって歩調を一つにしていくことが最も大事なことですね。

酒井

こまかいことをいうのではありませんが、法人住民税、電気ガス税、煙草消費税など、馬鹿にできませんからね、まあしかし、とらぬたぬきの皮算用にならぬよう、お互いに自戒していかねばなりません。

町長

固定資産税をめぐる話が出ましたが、もちろんそのこと自体は大事なことは申すまでもありません。わたしは、それに加えて、いつもいうことですが、朝日発電のもたらす意義は、朝日町にプラスするということのみでなく、新川低開発地帯の発展に結びつくと信ずるが故に、この運動を押し進めているのであってこの点の理解を町民の皆さんに十分持っていただきたいと思うのです。

(1)用水不足がダムができることになれば緩和され流量が安定する。

(2)かんがい用水の取水調整が容易になる。

(3)中小洪水が減少する。

(4)観光資源が新生する。

等、新川地帯発展の上に大きくプラスすることを広い目で見なければならぬと思います。

司会

時間も相当たちましたので、この辺で今晩の座談会を終ることにいたします。町長さん始め、関係の皆さん、どうもご苦労様でした。

つきましては、この座談会の開催についてでありますが、今度も五月以来中断していましたが、必要に応じて開催いたしますので、これで終ったというのでなく、またご案内をいたしました節はご足労を願いたいと存じますので、どうぞよろしく。

婦人会活動

殿町支部栄養教室
—山崎婦人会—

黒部保健所のご指導のもとに、栄養教室を殿町公民館で開設しています。

学級生は五十六名おりまして、年間計画にもとづいて、栄養学、公衆衛生、食品衛生、調理実習、献立ての立て方、栄養診断等、講義と実習を併行して月一回～二回実施しております。保健所からは所長さんを始めとして衛生課長さん、栄養士さんが講師としておいでくださいます。

公民舘には学習や実習のための適当な施設に欠けておりましたので、小学校にお願いして不用の児童用古机やいすを貸していただき、農協のトラックで運搬していただきました。

また、飲料水もつるべでくみ上げていましたのを、町内会長さんのご厚意でポンプに替えていただいたり、水盤も取付けていただききした。婦人会本部からは助成金もいただいたり、地区あげてのご協力のもとに六月二十五日から開設しております。

今までの婦人会の会合には、多忙のあまり出席率のよくないこともありましたが、この教室だけはほとんど欠席する者もいません。

みんな熱心にテキストを読み、手帳にメモする姿はほんとうに真剣そのものです。

白米ばかりの過食が健康上よくないという含水炭素の講義が終ってから、全員急に強化米をとり入れるようになり、また将来は、農協にお願いして強化麦を購入していただき、普及につとめたいと考えております。

食品衛生では、サルモネラ菌の恐ろしさをはじめて知り、ねずみの駆除の必要さを今更ながら知らされました。

このように、講義をうけてはそれを実習するという学習方法は、理論と実際が結びついて、ほんとうに身についたよい勉強になります。私達主婦には、食生活を通して、家族の健康をあずかるという重大な使命と責任があるはずです。この一年間の栄養教室こそ、最も有意義であると信じております。(山崎婦人会)

写真—殿町支部の栄養教室

両中学校に学生科学賞
第二十七回県科学展入賞作品

▽**学生科学賞・金賞**
宮崎周辺の自然観察　泊中科学クラブ

▽**学生科学賞・金賞**
電池の研究　小川中科学クラブ

▽**金賞**
えんどうの育ち方　伊藤宏範、坂口朱美 外四名(大家庄小四年)

▽**銀賞**
佐味神社の植物　秋山幸子、寺田馨子 (泊小五年)

▽**銀賞**
ひまわりの観察　魚津久美子 (泊小二年)

※学生科学賞は特に優秀なものに授賞されるものである。

(教育委員会)

第八回朝日町 青年問題研究集会

期日　十一月三十日・十二月一日(土・日)

会場　南保公民館

朝日町連合青年団

おわび

本誌十月号(第一五八号)八頁の「朝日町長寿番付」中、次の方がもれていましたので、追加いたします。

記

東張出関脇　松原ちい　91　蛭谷

(民生課)

国民年金
加入していますか

十一月は国民年金普及推進の月です。国民年金は、皆さんの年金です。

国民年金の加入手続をしていない人、保険料を納めていない人、また年金給付の請求をしていない人はありませんか。

国民年金は、農家の人や商店など自分で商売をしている人たちのために昭和三十六年四月から実施されています。

加入する人は明治四十四年四月二日以降に生まれた二〇才以上の人のうち、他の年金に加入している人などを除いてすべての人が国民年金に加入することになつています。

加入すれば、一定の保険料を納めることにより、老後の生活はもちろん、病気や、けがをしたとき、また夫との死別など不慮の事故にあつても保障されており、将来の生活も安定しています。

現在、どの年金制度からも保障されていない人は、いますぐ国民年金の加入手続きをとりましょう。

わからないことがありましたら役場の年金係へご相談ください。

(民生課)

図書案内

朝日町立図書館

日本の詩歌	金子光晴 外
陀羅仏の遊び	西村鮮之助
ゼロ大陸サイゴン	中田耕治
診療所のある村	遠山照彦
裸の町	五木寛之
怒濤の人	南条範夫
夜の声	井上靖
抑留記	井口朝生
熱帯魚の正しい飼い方	石川貞二
コイン	平木啓一
墓地の俳優	黒岩重吾
江戸三尺の空	多岐川恭
剣士伊庭八郎	池波正太郎
天と地と 上中下	海音寺潮五郎
牝の芳香	多岐川恭
女性葬送	今東光
道路交通法入門	佐賀潜
日本の怪談	山田野理夫
黒部とその山々を行く	深井三郎
北と稲と四十年	田中稔
女傑一代	永田美那子
一度だけを生きる愛	三浦朱門
衣裳に棲む虫	黒岩重吾
晩愁	源氏鶏太
雁よ愛に羽ばたけ	藤原英司
春のいそぎ	立原正秋
抄本おむすびの味	岡部伊都子
初歩の麻雀	斉藤緑風
三分間心身強健法	大川進
栄花物語	山本周五郎
女の部屋 上下	富島健夫
原色きのこ全科	清水大典
夜の会話	瀬戸内晴美
恋歌	五木寛之
孤剣二十六万石	南条範夫
原色日本の美術 絵巻物	小学館
神州纐纈	国枝史郎
中央流沙	松本清張
三匹の蟹	大庭みな子

農事教室

ことしの稲作反省

昭和四十三年度の稲作を反省し、来るべき年の稲作に資していただきたいので、特に問題点となったことについて書いてみます。

苗代期

朝日町としては、一部春の祭礼日を変更するなどして苗の準備に努力された年でした。やはり畑苗代を作られた方には良い年でした。苗作りの出発点で、消毒、催芽、覆土、鎮圧等かなめとなる作業を正確に行なうことです。

保温折衷苗代では除紙の遅れた人がありましたし、ビニール折衷苗代では徒長ぎみの苗が見受けられました。

苗代半作、一反歩の手入れより十坪の管理です。

田植え

五月の上中下旬とも平年より気温が大変低く、十日前ではC三度、十日から二十日ではC一、五度も低く、六月四日まで低温の年でした。そのため、苗の素質の悪いものは活着が著しく悪く、初期分けつも大変悪い年となったのです。密植された方は問題が少なかった年でした。

本田管理

施肥についての考え方は、基肥の量を減じて脱植の量を多くし、稲の生育相を健全型にすべきです。計画に基づいた施肥です。

水の管理は、水温の低い地帯は特に工夫が大切です。六月に入って水口の田植えをすることです。

本田の水管理は、活着までは十分に、そのあとはできるだけ少な目の方が良いようです。特に稲作の後期には二堪三落のことわざのとおりです。有効分けつの終期は、各品種共六月十五日前後です。本年の分けつは大変悪い年でした。草できのみに努力すべきではないことがわかっていただけたことでしょう。

病虫害の防除

〈二化メイ虫〉

一化期の発生は大変遅れた年でした。気象的な支配が大きかったので、一斉防除も平年より遅れたわけです。

二化期は他の害虫との総合防除で行なわれていますが、晩植地帯は特に二化期の防除も実施しないと被害が見受けられます。

〈うんか類〉

朝日町は本年発生は大変少ない年でした。やはり総合防除の一斉散布が効果が高いのです。セジロうんかが割合多く見受けられたがツマグロヨコバイの発生は少ない年でした。

〈イモチ病〉

本年は葉イモチ病は非常に少ない年でしたが、穂首イモチ病は中晩生に発病しています。特に八月二十八日台風後の薬剤散布が効果的でした。無散布の人は被害を受けています。

本年の豊作は、イモチ病の少なかった年だから、と云つて過言ではないでしょう。

〈紋枯病〉

例年の発病地帯には早中生種に発病します。富山早生、ホウネンワセ等の品種は六月二十五日前後に必ず防除し、七月上旬までに無病地帯としたいものです。

収量

本年は昨年に引き続き豊作となりました。計画的な栽培管理と技術向上により、農家の努力が実った年です。

朝日町では反収八〇〇kgの記録も出ています。来年は増収に加えて、さらにうまい米作りに努力してください。

（入善農業改良普及所朝日支所）

お知らせ

11月の人権身上相談

一、日時　十一月十八日（月）
　　午後一時から三時まで
一、場所　朝日町職工会館
（総務課）

秋の火災予防週間

十一月二十六日から十二月二日まで、火災予防運動のため、次のとおりサイレンを吹鳴します。

記

一、時間　午前七時、午後九時（二回）
一、方法　演習招集信号
　　15秒鳴、6秒休（三回）

（消防署）

自主納税協調と滞納整理強調月間

納税協力会などの協力で納期限内納税者が増加し、一〇〇%近い収納率をあげていますが、一部町民の中には納期限内納税をしない人もあり、まじめな町民各位には非常に迷惑をかけております。

町としては、毎月計画を立てて完納するよう呼びかけてきましたが、十一月二十日から十二月二十日まで〝自主納税協調と滞納整理月間〟として、誠意のない税納者には断固財産の差押えをすることにしました。完納して明るい町づくりにご協力くださるようお願いします。

（税務課）

毎月〝五〟の日は税の談相日

毎月五の日（五、十五、二十五）は税の相談日です。

税金でお悩みの方は遠慮なくご相談ください。なお、五の日が日曜、祭日にあたるときは翌日となります。

（魚津税務署）

明るい町づくりに——役立つ簡易保険——

簡易保険の保険料は、年間三千二百六十億円にも達し、日本経済の発展と公共施設の拡充に大きな役割を果たしています。それは、県や市町村をはじめ、農林漁業金融公庫、住宅金融公庫、中小企業金融公庫などに融資されて、学校、公営住宅、病院、道路、橋りょう等の公共事業資金や、中小企業の融通資金などとして運用され、私たちの日常生活と密接に結びついています。

朝日町でも、学校建設事業費五千七百万円、簡易水道事業費二千二百二十五万円、公営住宅事業費三百八十万円、都市計画事業費一千百二十万円など一億円余りの融資をうけ、町の建設のために地方へ還元されています。

いま郵便局では、簡易保険新加入運動を行なっています。

これは、簡易保険の資金を増加することにより、地方への還元を増大し、国民の経済生活の安定と地域住民の福祉増進に寄与し、明るく住みよい町づくりに貢献しようとするものです。

（朝日町役場　泊郵便局）

今月の税金は固定資産税　三期　水利地益税　全期分です

所得税第二期分の納期限は十一月三十日です。

（魚津税務署）

編集兼発行　朝日町役場
印刷所　高田印刷
送料　六円
定価　六円
郵便番号　九三九—〇七